



あなたは
私が考えていたような方では
なかった

あなたは
私が想っていたほうからは
来なかった

私が願ったようには
してくれなかった

しかしあなたは
私が望んだ何倍ものことを
して下さっていた

星野富弘



私はクリスチャンではないですが、星野富弘さんの詩画の言葉です。起きている事柄の意味がその時わからなくても何か意味があるんじゃないかと思えました。(仲)

Index

- APIS とびらのうた (仲) 1
- APIS 巻頭言 (佐藤慶美) 2
- APIS 平成25年度大阪市市民活動推進助成事業に選ばれました 3
- CAP 委託事業「生きている図書館」開催報告 4
- APIS APIS勉強会 大阪市子ども相談センター職員のお話(富士博良) 5
- APIS CCJ研修報告(木原眞世)、APISからいろいろお知らせ 6
- APIS 第8回APIS通常総会とワークショップのお知らせ、第23回理事会報告7
- APIS 活動記録 8

大阪市子ども相談センターの職員のお話をお聞きしました

2013年2月26日 APIS 事務所

講師；大阪市子ども相談センター

副所長 市村好弘さん



率直に大変な仕事だと思った。

児童に関わる事件は、マスコミの報道によって「重大」「最悪」な事件になっていく。もちろん表にでてこないこともまだまだいっぱいあると思う。よくいわれる虐待としつけの問題も、どこまでがしつけ？どの立場でみるとしつけ？なのかという議論になりがちだが、教えることに暴力はいらないし、なおさら反抗できない弱い立場のものにとっては言うまでもない。それを第三者が見て、関わっても判断がむずかしいだけである。それで重大な事件になってしまう。いじめ・体罰も同じである。

また、発生しているケースはすべて違っている。その検証がされていても、プライバシー保護の問題で情報の共有ができない。このこともまた、次の重大な事件につながる。

人がライオンをみる。シマウマをみる。専門家がみれば一頭一頭違いがわかるが、普通にみればほとんど同じと認識する。これが人間の特徴で、普段の生活でなにげなく（無意識）にまわりの人を見ている。ところが、それでいて肌の色、身長、髪型、腕、脚などの違いによって区別（差別）することがある。人として同じなのに、頭の中の意識によって違うと思ってしまう。それが子ども、女性、障がい者と、人として同じなのにわけてしまう。能力、体力、技術力、理解力…等々は違って当然なのに、なぜかその違いは認めない。そこで問題が発生し、取り締まり（ルール）のみが厳しくなる。今まで取り締まりが厳しくなって、世の中よくなったことはない。話を聞いていて、何度同じことを繰り返せばいいのだろうかと思った。

漠然と考えていた。人は必ず死ぬ。原因はいろいろあるが、しかし確実に死ぬ。クローンができて、オリジナルは死ぬ。人がそのことを自覚すれば、変われると思うのだが。



(富士博良)

